

## 第6学年1組 理科学習指導案

令和7年11月19日（水）5校時

児童数 28名

場所 理科室

指導者 岡嶋 久和

### 1 単元名 「水溶液の性質」

### 2 単元について

#### (1) 児童観

本単元「水溶液の性質」と家庭科の学習との関連について、児童がどのように捉えているかを把握し、単元の指導計画に生かすため、単元を始める前に「掃除」に関するアンケートを実施した。その結果、以下のような回答が得られた。（表1）

質問1では「学校はきれいだと思いますか。」に対して、「はい・どちらかというとはい」と回答した児童は14名、「どちらかというといいえ・いいえ」と回答した児童は12名であり、約半数の児童は学校があまりきれいではないと感じていることが分かった。

質問2では「学校の中で汚れていると思うのはどんな場所ですか。」に対して、児童はさまざまな場所を回答しており、特にトイレや教室、階段の意見が多かった。児童が学校で生活をしている中で、汚れていると感じる場所が多いことが分かった。

質問3では「汚れを落とすにはどんなものを使えばいいと思いますか。」に対して、児童は箒、ちりとり、ブラシ、モップなどといった普段の掃除で使用している道具を挙げる児童もいれば、洗剤や新聞紙など家庭科の学習や家での生活体験を基に回答する児童が多いことも分かった。

質問4では「家庭科で掃除について学習したとき、どのようなことに気をつけようと思いましたか。」に対して、上から下に向かって掃除をすることや細かいところは割り箸などを使って掃除をすることなど、家庭科で実践した掃除の仕方を回答する児童もいれば、洗剤を入れすぎないことや、洗剤には混ぜたら危険なものがあることなど、洗剤を使用するときの注意を回答する児童もいた。このことから、家庭科の学習が児童の生活に結びついていると考えられる。

質問5では「いままでどのような洗剤を使ったことがありますか。」に対して、児童は商品名で回答することが多かったため、「〇〇用洗剤」と分類した。児童の生活の中ではさまざまな洗剤が利用されていることが分かった。

質問6では「さまざまな場所で使われる洗剤の「表示」を読んだことはありますか。」に対して、18名がはい、8名がいいえと回答していた。児童の身近にある洗剤であるが、「表示」まで読んで使用することがあまりない児童もいることが分かった。

表1 掃除に関するアンケート調査（ゲーグルフォームで回答）

No	アンケート内容	児童の回答
1	学校はきれいだと思いますか。	はい・どちらかというとはい 14名 どちらかというといいえ・いいえ 12名

2	学校の中で汚れていると思うのはどんな場所ですか。(自由記述)	トイレ 下駄箱 タブレットケースの下 教室 廊下 階段 窓のレール 通路や階段の隅 水道 ベランダ 壁・ドア・テレビなどの隙間 机の下 プール 本棚の裏 黒板の下
3	汚れを落とすにはどんなものを使えばいいと思いますか。(自由記述)	洗剤(洗剤の商品名) 水 ブラシ 箒 雑巾 漂白剤 モップ 歯ブラシ ちりとり スポンジ 新聞紙
4	家庭科で掃除について学習したとき、どのようなことに気をつけようと思いましたか。(自由記述)	洗剤を入れすぎない 洗剤には混ぜたら危険なものがある 上から下に向かって掃除をする 細かいところを掃除するときに道具を使う 自分が汚れないようにする 雑巾を適度に濡らす 隅々までしっかり掃除する きれいに使う こすりすぎないようにする
5	いままでどのような洗剤を使ったことがありますか。いくつでも構いません。(自由記述)	研磨剤 洗濯用洗剤 漂白剤 食器用洗剤 トイレ用洗剤 柔軟剤 上履き用洗剤 石鹼 ボディソープ ハンドソープ シャンプー 粉末洗剤 液体洗剤(商品名は省略しています)
6	さまざまな場所で使われる洗剤の「表示」を読んだことはありますか。	はい 18名 いいえ 8名

## (2) 教材観

本単元は小学校学習指導要領解説理科編で以下のように位置づけられている。

### 第6学年 A (2) 水溶液の性質

水溶液について、溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。

(イ) 水溶液には、気体が溶けているものがあること。

(ウ) 水溶液には、金属を変化させるものがあること。

イ 水溶液の性質や働きについて追究する中で、溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

本内容は、第5学年「A (1) 物の溶け方」の学習を踏まえて、「粒子」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「粒子の結合」、「粒子の保存性」に関わるものであり、中学校第1分野「(2) ア (イ) 水溶液」、「(4) ア (イ) 化学変化」の学習につながるものである。

ここでは、児童が、水に溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、水溶液の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成することがねらいである。

## (3) 指導観

本単元の「水溶液の性質」について学習するに当たって、家庭科「住まいの掃除の仕方」で既習した内容から身近な水溶液として「洗剤」があることを児童から引き出し、さらに、6年生の3学期に

行う奉仕活動へつなげ、水溶液の性質が身近な掃除と関わっていることを感じさせる授業展開を行っていく。本単元の学習のテーマを理科、家庭科、奉仕活動をつなぐ、「立野小学校クリーン大作戦～お世話になった学校を”科学の力”できれいにしよう！～」と設定することで、学習意欲を高めたい。

第1次では、児童は主に水溶液に溶けているものを調べる活動を行う。中身が分からない（水、クエン酸水、アルカリ電解水が入っている）スプレーを水垢汚れやラー油の汚れに吹きかけると、汚れが落ちる液体と落ちない液体があることに児童は気付く。児童は汚れが落ちた液体に対して洗剤と予想し、そこから水と洗剤の違いについて、水に何かが溶けているのが洗剤であると発想させたい。児童は何が溶けているかを知るために洗剤の容器に記載された成分や注意書き（以下、洗剤の表示）を見て、洗剤にはさまざまなものが溶けていることを知る。洗剤に入っているものは固体なのか、それとも違うものなのか、溶けている物質の状態に着目させつつ、洗剤の表示にあった酸性、中性、アルカリ性の代表の水溶液として塩酸と炭酸水、食塩水、アンモニア水について、これらの液体に何が溶けているのかをどのように調べれば良いかを考えさせ、意欲をもって調べさせたい。

第2次では、児童は主に水溶液の酸性、中性、アルカリ性の仲間分けについて学習する。第1次で洗剤の裏の表示から「洗剤には酸性、中性、アルカリ性というものがある」ことを知っている。児童が新しく知る、液性を調べるリトマス紙というものが、どのように酸性、中性、アルカリ性を示すのか、という疑問から、色の変わり方で分けることができることを学ばせたい。また、リトマス紙だけでなく、万能試験紙など液性を調べられる道具を用いて、身の回りの洗剤の液性を調べる活動を行う。これにより、水溶液について学習した観点から、日常生活の事象に興味・関心をもって見直すことの有用性を実感させるとともに、万能試験紙を使って再度実験したいという意欲を引き出すことをねらいとする。本時では万能試験紙で調べた液性と本単元のテーマである掃除をつなげ、どの汚れにどの液性が使われるのか、万能試験紙の色の変化や洗剤の裏の表示などを見て、多面的に考え、洗剤の液性によって用途が違うという、より妥当な考えをつくり出すことができる姿を期待したい。

第3次では、児童は主に金属を溶かす水溶液について学習する。洗剤の裏の表示に使ってはいけない場所があることを想起させ、使った場合にその場所がどうなるか簡単な演示実験を行う。児童に使った場所が何か変化していることから、酸性の水溶液が金属を溶かしてしまうのかという問題をつくらせたい。また、溶けてしまった金属を蒸発させることで取り出したものは元のものとは違う見た目であることや、演示実験で金属が溶けてしまったあとに水拭きなどで拭いても元にはもどらず、跡になってしまうことから、問題をつくらせたい。水溶液には金属を溶かし、金属を別のものに変化させるものがあるという見方や考え方を働かせることで、児童が奉仕活動を行う際に、洗剤を使用してよい場所と使用を控える場所を自ら判断し、行動できる姿を期待したい。

最後に、単元の始めに単元を貫く問題「洗剤を使うとき、何に気をつけて使いますか。」を設定し、OPP Aシートを作成した。シートには毎時間の振り返りを記入したり、単元の学習前と学習後の回答を比較できるようにしたりすることで、児童の変容を自分自身で確認して、さらに深い学びへとつなごうとする児童を育成したい。

### 3 調査研究テーマと本授業での手立て

育成したい資質・能力

「誰もが豊かでよりよい未来を創造するための問題発見・解決能力の育成」

目指す児童像

「他者と協働して科学的に探究し、生活の中にある未知の課題に対して挑戦できる子」

本単元では、まず、単元を貫くテーマを、理科の学習の中に、家庭科で学習した「住まいの掃除の仕方」を生かしながら、「6年生の奉仕活動」に向けてテーマを設定した。これにより、小学校生活の最後に後輩たちへきれいな学校を残そうとする豊かな心を大切に、学習への意欲を高めたい。また、学校をきれいにするために、普段何気なく使っている洗剤には、どのような違いがあるかについて、それぞれの洗剤の性質に着目して問題を発見し、実験方法を考えることによって問題を解決する能力の育成を図りたい。その過程で、計画的に安全な実験をする方法を互いに確認したり、結果から考えられることを意見交換したりすることによる協働的な活動を通して、科学的な探究が行われることを期待したい。

### 4 単元の目標

水に溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、水溶液の性質や働きについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に妥当な考えをつくり出す力や主体的に解決しようとする態度を育成する。

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①水溶液には、酸性、アルカリ性及び中性のものがあることを理解している。</p> <p>②水溶液には、気体が溶けている物があることを理解している。</p> <p>③水溶液には、金属を変化させる物があることを理解している。</p> <p>④水溶液の性質や働きについて、観察、実験などの目的に応じて器具や機器などを選択して、正しく使いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</p>	<p>①水溶液の性質や働きについて、問題を見出し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。</p> <p>②水溶液の性質や働きについて、観察、実験などを行い、溶けている物による性質や働きの違いについて、より妥当な考えを作り出し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>①水溶液の性質や働きについての物事・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら、問題解決しようとしている。</p> <p>②水溶液の性質や働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>

6 指導と評価の計画 (全 11 時間)

次	時	学習活動	重点	記録	◇評価の観点 (方法) ・指導上の留意点
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の授業を振り返り、掃除について想起する。</li> <li>・学年末に行う 6 年生の奉仕活動について知る。</li> <li>・掃除に関するアンケートの結果を全員で確認する。</li> </ul> <p>〈単元を貫くテーマ〉</p>	主		◇主体的に学習に取り組む態度① (記述分析) ・家庭科の授業を振り返り、これから行う奉仕活動について知ることで、理科とのつながりを意識させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <p><b>立野小クリーン大作戦</b>              ～お世話になった学校を“科学の力で”きれいにしよう！～</p> </div>				
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りで使われている洗剤の表示を見て、気付いたことから、これから解決していく問題を発見する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○含まれる薬品について</li> <li>○色やにおいについて</li> <li>○「液性」について</li> <li>○使われ方について</li> <li>○注意書き (「まぜるな危険」) について</li> </ul>	主	○	◇主体的に学習に取り組む態度① (記述分析・行動観察) ・児童の自由な気づきを大切に、似ている意見をグループに分けながら整理していく。 ・より多くのことを児童に気付かせるため、洗剤をカップに入れて観察させる。 ・においのかぎかた、洗剤の扱い方などの安全に観察できるように指導する。 <b>【身の回りの洗剤】</b> クエン酸水、トイレ用洗剤、トイレの消臭剤、炭酸水、ハンドソープ、洗濯用洗剤、食器洗い用洗剤、アルカリ電解水、ブリーチ、カビ取り剤
	3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 種類の水溶液 (食塩水、塩酸、アンモニア水、炭酸水) にはそれぞれ何が溶けているのかを考える。</li> <li>・色やにおいを調べる。</li> <li>・蒸発させて調べる。</li> </ul>	思	○	◇思考・判断・表現② (記述分析・行動観察) ・液体を扱うときは保護メガネを装着させる。 ・火の扱いについて確認させる。 ・薬品を扱うときの注意を確認させる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸発させても何も残らなかった塩酸、アンモニア水、炭酸水に</li> </ul>	知	○	◇思考・判断・表現① (発言分析) ◇知識・技能② (記述分析)

		<ul style="list-style-type: none"> <li>は気体が溶けているのか考える。</li> <li>炭酸水から出た気体を石灰水に通して調べる。</li> <li>水と二酸化炭素をペットボトルに入れてふる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・気体が溶けている物で身近な炭酸水を調べさせ、その結果から塩酸とアンモニアについて妥当な考えをつくり出させる。</li> <li>・洗剤によっては、直射日光や高温にふれることで危険なことや期待される洗浄効果が出ないこともあると児童に伝える。</li> </ul>
2	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗剤に液性があったことを想起する。</li> <li>・4つの水溶液はリトマス紙によって、どのように仲間分けできるのか考える。</li> <li>・水溶液をリトマス紙に付けて変化を調べる。</li> <li>・リトマス紙以外に液性を調べられる万能試験紙を知る。</li> </ul>	知	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇知識・技能①（記述分析）</li> <li>・リトマス紙の使い方を確認させる。</li> </ul>
	7 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの汚れを想起する。</li> <li>・3つのよごれ（水垢、布に付いた油污れ、カビ）には、どの液性の洗剤を使えばよいか考える。</li> <li>・洗剤の液性を万能試験紙で調べる。</li> <li>・汚れを落とすのに有効な洗剤の液性を考える。</li> </ul>	思	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇思考・判断・表現②（記述分析）</li> <li>◇主体的に学習に取り組む態度②（記述分析）</li> <li>・洗剤を1種類ずつカップに入れて配付し、実験させる。</li> <li>・万能試験紙の使い方について確認し、酸性、中性、アルカリ性の色を確認する。</li> </ul>
3	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗剤の注意書きに使えない場所についての表記を想起させる。（トイレ用洗浄剤の例）</li> <li>・塩酸は金属を溶かしてしまうのか考える。</li> <li>・細かいアルミと鉄を塩酸に入れて調べる。</li> </ul>	知	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇知識・技能③（記述分析）</li> <li>◇思考・判断・表現①（発言分析・記述分析）</li> <li>・アルミと鉄は細かくして反応が早くなるようにしておく。</li> </ul>
	9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩酸に溶けた金属はどうなっているのか考える。</li> </ul>	思	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇思考・判断・表現①（発言分析・記述分析）</li> <li>・一度溶けてしまったものはもとに戻すことが難しいため、洗剤を使用できる場所</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属を溶かした水溶液を蒸発させる。</li> <li>・もとの金属とのちがいを①電気を通すか②塩酸に溶かして泡が出るか③水に溶かせるかで調べる。</li> </ul>			に気を付けて使う必要があることを伝える。
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラベルがはがれてしまった洗剤の容器を提示する。</li> <li>・5つのビーカーの中から水の入ったビーカーを2回で見分けるには、どうすればよいか考える。</li> <li>・において、蒸発、リトマス紙の実験の順番を考える。</li> <li>・グループごとに実験方法を考え、実験する。</li> </ul>	思	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇思考・判断・表現②</li> <li>◇知識・技能④</li> <li>・実際にラベルがはがれてしまった場合には、調べることも大切であるが、事故などを防ぐために破棄する判断も必要であることを伝える。</li> </ul>

## 7 本時の学習 (7/11時)

### (1) 目標

〈思考力、判断力、表現力等〉水溶液の性質や働きについて、実験を行い、溶けている物による性質や働きの違いについてより妥当な考えをつくり出し、表現するなどして問題解決することができる。

〈学びに向かう力、人間性等〉水溶液の性質や働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとする。

### (2) 展開

学習活動	教師の働きかけ (○) と 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (・) 評価規準 (◇) 教科横断の視点 (※)	時間
1 前時までの学習を想起する	○水溶液はリトマス紙や万能試験紙を使うとどのように仲間分けできますか。 ・酸性。中性。アルカリ性。	・前時に行ったリトマス紙の色の変化と水溶液の液性を想起させる	2
2 本時の問題を作る	○身近な汚れとして、水垢、布の汚れ、カビの汚れがあります。	・学校や身の回りにある汚れの写真を提示する。	3

- ・きたない。落としたい。
- 洗剤の液性は1つでしたか。
- ・洗剤によって違いました。
- なぜ、液性がちがうのでしょうか。
- ・汚れにあった液性があるからだと思えます。

- ※【家庭科】(6年)
- ・住まいの掃除の仕方や汚れの種類
  - ・洗剤の表示について気付いたことを書いた模造紙を提示する
  - ・汚れと液性を関係付けながら、児童と本時の問題を作る。

3つのよごれには、それぞれどの液性の洗剤を使えばよいでしょうか。

3 問題に対する予想をし、解決するための実験方法を考える

- 3つの汚れはどの液性の洗剤を使えばよいか予想してみましょう。
- ・水垢には酸性の洗剤が効きそう
- ・どの汚れにも酸性が効きそう
- ・油の汚れにはアルカリ性が効きそう

・児童に根拠をもって予想させる。

5

- 名前がわからないA～Jの洗剤があります。これらの液性を調べるためにはどうしたらよいでしょうか。
- ・万能試験紙で調べてみたい。

- 《使用する洗剤》
- |             |            |
|-------------|------------|
| A 台所用漂白剤    | B 食器用洗剤    |
| C トイレ用洗浄剤   | D カビ取り用洗浄剤 |
| E トイレ用消臭剤   | F クエン酸     |
| G 台所用油汚れ落とし | H 洗濯用合成洗剤  |
| I 重曹水       | J 炭酸水      |

- 洗剤の液性によって、汚れを落とすのか確かめるためにはどうしますか。
- ・汚れに酸性、中性、アルカリ性の洗剤をつけて比べたら良いと思います。

・汚れにあった液性だけでなく、比較するために、他の液性でも調べる必要があることに気付かせる。

4 実験をする

- 万能試験紙で調べる方法を確認します。

- ・安全に実験できるように、必ず保護メガネをして、立って実験するように伝える。
- ・洗剤は安全上、水で薄めたものを児童に配付する。
- ・『水素イオン濃度(pH)が8.0以下6.0以上のものに限り「中性」と表示』(消費者庁から引用)されるため、

10

[万能試験紙の使い方]

- ①試験紙を調べたい水溶液に静かに浸し、1秒以内に引き上げる。
- ②試験紙を軽く振って、余分な水分を除く
- ③ぬれている部分の色を5秒以内に確認し、色見本と比較する。

(アドバンテック東洋株式会社から引用)

1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0
番号と洗剤における液性										
番号	液性									
1.0~5.0	酸性									
6.0~8.0	中性									
9.0~11.0	アルカリ性									

	<p>○ワークシートに沿って洗剤を分けましょう。また、分けられたら「洗剤カード」を渡すので、液性と用途を確認しましょう。</p>	<p>万能試験紙の色の見方について児童に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・万能試験紙で酸性、中性、アルカリ性になったものをワークシートに沿って分ける。</li> <li>・分けられたら、洗剤の表示が拡大された「洗剤カード」を渡し、液性の確認と、用途を調べさせる。</li> </ul>	
<p>5 結果をまとめる</p>	<p>○それぞれの洗剤について、万能試験紙を使って、液性を調べましょう。(数字はpHを示している)</p> <p>A 11 B 7 C 1 D 11 E 4 F 1 G 11 H 8 I 11 J 5</p> <p>○事前に3つの汚れを、酸性、中性、アルカリ性の液性の洗剤で落としてみました。その結果を全員で見ましょう。</p> <p>①石灰水の汚れは酸性のクエン酸のみが落とす</p> <p>②布に付いた油汚れは洗濯用洗剤のみが布の色を変えずに落とす</p> <p>③水道にあるカビは台所用漂白剤のみが落とす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万能試験紙の色の変化を見本の番号 (pH) から液性を判断させる。</li> <li>・水垢の汚れはビーカーについた石灰水の跡、油汚れはラー油、カビは学校の水道のふちにあるゴムの部分を用いる。それぞれの液性の代表として、酸性はクエン酸水、中性は食器用洗剤、アルカリ性は台所用漂白剤をつけておいた結果を提示する。</li> <li>・②の実験結果では、台所用漂白剤でも汚れが落ちているが、布そのものの色まで落としていることから、汚れのみを落とすときにふさわしいものを児童に考えさせる。</li> </ul>	<p>10</p> <p>10</p>
<p>6 考察する</p>	<p>○3つのよごれには、それぞれの液性の洗剤を使えばよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水垢には酸性、布の汚れには中性、カビにはアルカリ性の洗剤を使えばよいと考えられる。</li> </ul>	<p>◇【思考・判断・表現】</p> <p>水溶液の性質を万能試験紙で調べ、水溶液の働きを洗剤の表示や実際に汚れを落とす活動を通して、溶けている物による性質や洗剤の使われ方の違いについて、より妥当な考えを作り出し、表現す</p>	

		るなどして問題解決している。(ノートの記述分析)	
7	まとめをする	水あかには酸性の洗剤、布に付いた油汚れには中性の洗剤、カビにはアルカリ性の洗剤を使えばよい。	2
8	振り返りをする	・洗剤の酸性、中性、アルカリ性で使われ方に違いがあったので、これからはちゃんと表示を見て、洗剤を効果的に使いたいと思った。	3
		・児童の言葉でまとめを行う。 ◇【主体的に学習に取り組む態度】 水溶液(洗剤)の性質や働きについて、使われる場所や用途によって液性が違い、効果的に使わなければいけないことを学習や生活に生かそうとしている。(振り返りの記述分析)	

## 8 板書計画

学校にあるトイレの鏡の写真	鏡について	洗剤の表示を見て、気付いたこと  児童の気付いたことを付箋に貼って、分類した 拡大掲示物
体育着についた給食の汚れの写真	水あか 布について 油よごれ	
学校の水道のふちにあるゴムの部分のカビの写真	水道の カビ	

<p>問 3つのよごれには、それぞれの液性の洗剤を使えばよいでしょうか。</p> <p>予 水あかはトイレ用洗剤が効きそう 油よごれには食器用洗剤 カビにはひょう白剤</p> <p>実 洗剤の液性を万能試験紙で調べる 洗剤の液性によってよごれが落ちるか調べる</p>	<p>結 A 11 B 7 C 1 D 11 E 4 F 1 G 11 H 8 I 11 J 5 石灰水のあとは、クエン酸水で落ちた 油よごれは、洗濯用洗剤で落ちた カビはひょう白剤で落ちた</p> <p>考 水あかには酸性の洗剤、布に付いた油汚れには中性の洗剤、カビにはアルカリ性の洗剤を使えばよいといえる。</p>
---	---